



病院長 小林 辰也

2020 年を迎え、遅くなりましたが、最初のご挨拶をさせていただきます。

当院は、脳神経疾患、とりわけ脳卒中の専門病院として、地域の皆様のお役に立てるよう、診療を行って参りました。脳卒中診療は、診断から治療に至るまで、迅速な対応が必要なことも多く、極めて専門性が高い領域です。その専門性の高い診療が行える施設として、昨年から日本脳卒中学会は「一次脳卒中センター（PSC）」の認定を開始しました。

一次脳卒中センター（PSC）とは、地域医療機関や救急隊からの要請に対し、24 時間 365 日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師、専門チームが、速やかに診療を開始できる施設とされ、認定を受けるためには様々な要件を満たす必要があります。当院も昨年 9 月に認定を受けることができました。脳卒中の診断に必要な MRI（1.5 テスラを 3 台）や CT、血液検査、生理検査等を 24 時間体制で行い、早期の治療にあたってきたスタッフの努力が評価されたと自負しています。これまでも、脳梗塞発症から早期の患者様には、血栓溶解療法（t-PA 療法）を積極的に行なってきました。これは点滴による治療ですが、大きな血栓が詰まった場合には、効果が得られないこともしばしばありました。しかしながら、最近では、カテーテルを閉塞した血管まで送り、機械的に血栓を除去する治療も、積極的に行なっております。この血栓回収療法により、完全に動かなかった手足が元通りに動くようになったり、言葉が話せなかった方が普通に会話できるようになったりと、劇的な改善を得られることもあります。



【開頭手術】



【血管内手術】

さて、当院では、脳卒中発症早期からの治療と同時進行で、急性期リハビリを開始しておりましたが、急性期の治療が終了後、ご自宅へ戻られるまでの回復期にリハビリを行うことができず、他院でリハビリを行なって頂いておりました。患者様によっては、遠方へ転院し、ご不便をおかけすることもあったと思います。私共といたしましても患者様の回復していく過程を見ることができず、心残りに思うこともございましたが、2019年4月に回復期病棟を開設することができました。これまでは、急性期病床50床で急性期治療を中心に診療を行なっておりましたが、回復期病棟を開設後は、急性期病床47床、回復期病床30床、合計77床となり、地域を離れることなく、当院にてリハビリを継続して頂き、発症からご自宅に戻られるまでを、継ぎ目なく当院で治療に当たって頂くことが可能となりました。これまで培ってきた専門病院としてのリハビリのノウハウを活かし、2019年4月から12月までに当院回復期病棟でリハビリを施行された方の在宅復帰率も92%（全国平均73.8%）と良好な結果となっております。

これからも地域の皆様のお役に立てるよう更なる改善を行い、職員一同頑張っていく所存ですので、今後ともよろしく願いいたします。

